

研究主題 書字文化を大切にし、文字感覚を高める書写指導

テーマ 学習過程を重視した指導方法の改善

I 団体について

【団体の概要】

学習指導要領に示された目標を踏まえ、書写の基礎・基本的な知識及び技能や主体的に学習に取り組む態度の育成を図る指導方法の工夫について、研修会を通して研究・実践交流をしている。

【団体の取組み】

年間の主な取組みは次のとおりである。

- ① 6月 定期総会/研修会 書き初め撰文、書き初め執筆者選定
(書き初め紙上展の課題文字を決定し、執筆者を選定する)
- ② 7月 研修会 書き初め文字基準確認
(執筆者が試作した文字基準について検討する)
- ③ 8月 研修会 書き初め文字基準完成
(執筆者による文字基準を再度検討し、完成させる)
- ④ 9月 研修会 研究発表会に向けた指導案検討(1)
(授業担当者が提案した学習指導案について検討する)
- ⑤ 10月 研修会 研究発表会に向けた指導案検討(2)
(授業担当者が提案した学習指導案について検討する)
- ⑥ 11月 研修会 書き初め指導法の研修(1)
(書き初めの執筆者による文字基準の要点等解説を聞き、指導法を学ぶ) 右上に続く➤

⑦ 11月 研究発表会/研修会 書き初め指導法の研修(2)

(公開授業(板橋区立赤塚第三中学校:井上夢可教諭)と研究協議会/書き初めの執筆者による文字基準の要点等解説を聞き、指導法を学ぶ)

⑧ 2月 研修会 書き初め紙上展の審査

(書き初め指導法研修会参加者から審査会の参加者を募り、審査しながら審査法を学ぶ)

⑨ 3月 書き初め展授賞式

その他の活動として、年度末に研究紀要の発行・配布を行っている。

II 研究について(1)

【研究の目的】

生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、書写の知識・技能を高めるために、主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びの成就を図る。

【研究の方法】

- ① 学習過程を理解し、課題文字との主体的・対話的な学びを通して、文字文化に触れながら書く意識及び書写の知識・技能を向上させる。
- ② ICTを活用し、動画により筆の動かし方等を学ぶことや、自分の書いた文字と文字基準を比較し、「課題」を自ら見出し選択することによって、具体的にその改善に向けて取り組ませる。

Ⅲ 研究について(2)

【研究の内容】

- ① 書き初めの課題文字について、概略と留意点や筆使いなどを知る。
- ② 試書したものを一人1台タブレット端末で撮影して記録に残すと同時に「良かったところ」及び「課題」を自分で考える。
- ③ 課題のA字形、B線の強弱・筆圧、C筆使い、D丸み、E筆脈、Fその他、の中から選んだ各自の課題を集中的に意識して練習する。
- ④ 大型提示装置で筆使い動画を見ながら課題解決を目指して練習し、最も課題解決できた一枚をタブレット端末で撮影し、タブレット端末上で「提出」する。
- ⑤ タブレット端末上で、タブレットシートに振り返りを記入して記録を残し、ポートフォリオとして活用する。



↑留意点を伝える様子



↑タブレット端末で撮影



↑タブレットシートに振り返りを記入

Ⅳ 研究の成果と課題（まとめ）

【研究の成果】

- ・ICTの活用により「自分のペースで大型提示装置により筆使い動画を何度でも見て確認できる」「自分が書いたものと文字基準を比べて変容を客観的に見ることで課題が明確になりやすい」「タブレットシートに振り返りを記入して記録を残し、ポートフォリオとして活用する」といった利点が見られた。
- ・「課題」を選択させ、課題文字に対して主体的・対話的な学習に取り組むことで、個別最適化を意識した学習の展開ができた。



【研究の課題】

- ・タブレット端末で他の生徒の提出物を鑑賞することもできるので、効果的に活用し学び合い活動を行う。

<連絡先>

団体名		東京都中学校書写研究会
代表者	所属	杉並区立阿佐ヶ谷中学校
	職 氏名	校長 齋藤 健一
	連絡先	03-3314-2261
事務局	所属	葛飾区立小松中学校
	職 氏名	主幹教諭 池田 水帆
	連絡先	03-3653-1436

研究主題 中学校学習指導要領の趣旨・内容を踏まえた指導の改善

I 団体の概要

- 都内公立中学校の数学科教員をもって構成する数学教育研究会。
- 中学校数学教育の向上を図ることを目的とし、会長のもと会員相互の自主と協調のもとに、以下の5部会・8委員会を組織し、数学教育全般にわたる研究活動を実施。（本年度、指導法委員会は活動休止）

5部会 庶務部・研究部・調査部・広報部・会計部

8委員会 研究部内に、数式委員会・教育課程委員会・指導法委員会
図形委員会・確率統計委員会・評価委員会・導入法委員会・関数委員会

II 主な年間活動

●運営に関する会（総会）・講演会の開催

令和5年5月13日(土)

於 練馬区立開進第二中学校 セミナーハウス（松山館）

- ・指導改善に向けた大学教授等による講演会

演題 「数学的活動の具体化に向けて
～思考の飛び石を活かした指導～」

講師 文教大学教育学部 教授 永田 潤一郎 先生

●数学指導技術向上研修会の開催

【本研究会と東京都教職員研修センターが連携研修として開催】

令和5年8月18日(金) 於 北区立王子桜中学校

- ・若手、中堅の都内数学科教員を対象とした研修会の企画・運営

●研究部委員長研修会の開催

第1回 令和5年6月16日(金) 於 新宿区立西早稲田中学校

第2回 令和5年10月13日(金) 於 新宿区立西早稲田中学校

●研究大会への参加

- ・第105回全国算数・数学教育研究（青森）大会
令和5年8月10日(木) 【教育課程委員会・関数委員会】
- ・第78回関東甲信静数学教育研究神奈川大会
令和5年11月2日(木)
【図形委員会・関数委員会・確率統計委員会】

●第61回研究発表大会の開催（予定）

令和6年2月17日(土)13:30～ 於 新宿区立西早稲田中学校

- ・指導改善に向けた大学教授等による講演会
演題 「学びの連続性を踏まえた中学校数学科の授業づくり」
講師 千葉大学教育学部 教授 松尾 七重 先生
- ・領域等における指導改善の実践と研究成果の発表
【調査部及び、研究部7委員会】

《各委員会及び、調査部の発表テーマ》

教育課程	主体的・対話的で深い学びを追究した授業づくり
確率統計	PPDAC サイクルを意識した指導
導入法	「誤差や近似値」の指導法の提案
図形	型にとらわれない証明問題の論述指導
関数	変化の割合の概念・意味の理解 ～具体的な場面を通して～
評価	学習指導要領における評価の在り方について (6) ～ルーブリックを用いたインタビュー形式での評価の試行～
数式	主体性を育てる指導の工夫 ～自ら見通しをもつことのできる生徒の育成～
調査部	「数学教育推進にかかわる実態調査」の結果の分析と報告

●その他の活動

- ・講演会、研究部活動、地区活動の報告をまとめた会報誌および、研究発表集録の発行 【広報部】
- ・都内公立全中学校対象「数学教育推進にかかわる実態調査」の実施および、結果の分析と報告 【調査部】

Ⅲ 令和5年度 数学指導技術向上研修会について（報告）

●取組の内容

- ・受講生と助言者（本会役員及び委員会所属委員）の対面による集合型研修で、受講生を事前アンケートから指導領域ごとに7つの班に編成し、班ごとに受講者が持参した指導案について、協議・検討後、助言者からの指導・助言を行った。
- ・本年度は4名の講師の先生からの指導の時間を確保するため、第1回を動画視聴で行い、本研修会を第2回とした。

●成果

集合型研修による成果

- 受講者が持参する指導案がほぼ同領域となる小グループの編成ができたことで、受講生同士の活発な意見交換につながった。
- 小グループの分科会で、指導案の形式、教材観、評価計画や本時の展開など、幅広く丁寧な指導・助言が実施できた。
- 事前の動画による研修を実施したことで、学習指導案の作成について細かなアドバイスができ、協議内容が深まった。
- 分科会後の全体会では、講師の先生1名当たりの時間を増やせたことで、実りある指導・助言が実現した。

◎受講生アンケートからわかる成果

- 以下のような肯定的感想が多数寄せられた。
- ・助言者の先生にたくさん指導していただいた。また、実践事例を話していただいた。
 - ・初歩的な質問に対しても丁寧に回答していただき、安心して研修に臨めた。
 - ・自身の授業を見直す機会となった。
 - ・指導案の作成したことで色々と課題が見えた。また、授業の導入等をより深く考えることができた。

◎講師・助言者アンケートからわかる成果

- ・受講生と助言者が1対1できめ細かい助言ができた。
- ・同じ領域でグループ分けをしたため、意見が出しやすかった。
- ・各グループで運営の仕方を工夫していて良かった。

●課題

- ◎動画視聴を効果的に活用したり、分科会の運営方法を工夫（1グループの人数を減らす、流れを明確にするなど）して、受講生一人当たりにかかる時間をより多く確保する。
- ◎参加者を増やすために、周知方法の工夫や研修の申し込み期間の調整を図る。



少人数で編成した分科会では、具体的できめ細かい指導が実践できた。（左図）また、模擬授業を取り入れた分科会もあった。（右図）

<令和5年度連絡先>

団体名		東京都中学校数学教育研究会	
代表者	所属	国分寺市立第一中学校	
	職 氏名	校長 榎本 圭志	
	連絡先	042-322-0641	
事務局	所属	板橋区立板橋第二中学校	
	職 氏名	校長 柳澤 忠男	
	連絡先	03-3956-8121	
団体ホームページ		URL	二次元コード
		https://www.tochusu.com	

研究主題 理科の見方・考え方を働かせて資質・能力を育み、豊かな未来を切り拓く理科教育 生徒の主体的な学びや科学的な探究活動を通して、持続可能な未来を創造する理科教育

I 団体の概要

本研究会は、東京都内の公立中学校の全理科教員が会員となり、理科教育に関して研究している会です。3部4委員会を設け、定期的に研究活動を行い、理科教育の振興と会員相互の親睦を図っています。

II 団体の取組み

5月 新旧役員会・定期総会

6月 役員会・代表理事会

8月 都中理研究大会・第70回全中理東京大会

※通常は7月に夏季研修会・ポスターセッションを実施

10月 役員会

11月 会員研究発表会・代表理事会

12月 役員会・冬季研修会・開発教材コンテスト

1月 生徒理科研究発表会

2月 都中理報告会・役員会・代表理事会

3月 都中理研究会誌発行

III 研究の方法

教育課程委員会、学習・評価委員会、観察・実験委員会、環境教育委員会の4つの委員会が、それぞれテーマに沿った研究を行い、会員研究発表会等で発表しています。また、研究部は会員研究発表会、生徒理科研究発表会を、研修部は年2回の若手・中堅教員向けの研修会を、広報部は、研究会誌の発行と開発教材コンテストを実施しています。

IV 研究の内容

【教育課程委員会】

「主体的に学習に向かう態度の育成に生かす教育活動～1人1台端末環境の現状と課題～」をテーマに、スプレッドシートや様々なWEBサイトの活用、協働学習ツールの活用を行い、効果について研究を行いました。

【観察・実験委員会】

「現象を捉え、2つの視点から金星の見え方のしくみや規則性を見いだす資質・能力の育成」をテーマに、端末で金星の満ち欠けのモデルを観察する方法の効果について研究を行いました。

【環境教育委員会】

「遺伝子カードゲームを活用した環境教育の実践」～生徒の主体的・協働的な授業を活性化させる指導方法の工夫～をテーマに、カードを使って環境の変化の中で生き残る生物について考え、主体性・対話性を活発にさせる授業について研究を行いました。

- ・その他、会員個人の研究を会員研究発表会で発表しています。
- ・会員研究発表会の結果を踏まえ、令和6年度全中理山梨大会での研究発表者の推薦対象者を決定します。

開発教材コンテスト

先生方がオリジナルで開発した教材の発表を行っています。都中理研究会誌及び都中理HPに、教材の写真と紹介文を掲載します。

ポスターセッション

例年、先生方が指導法の工夫や新たな教材・教具の発表をブース形式で行っています。

博物館連携プロジェクト

国立科学博物館を校外学習等で利用する際、楽しく有意義に学習できるよう、国立科学博物館と都中理が協働してワークシートを作成しています。

V 第70回全中理東京大会の開催

令和5年8月6日（日）～8日（火） 東京ビッグサイト他

6日

○若手教員による実践発表と交流会（江東区立有明学園会場）

東京都からの2人を含む全国の13人の若手の先生方から20分の実践発表と25分のディスカッションを行いました。

7日

○文部科学省講演

演題：「資質・能力の育成に向けた授業づくりを考える」

文部科学省初等中等教育視学官 藤枝 秀樹 先生

○分科会 各分科会において都中理から発表を行いました。

第一分科会 教育課程	国立科学博物館を活用して理科の学びを深めるワークシート開発
第二分科会 学習・評価	「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫
第三分科会 観察実験	無色透明な培地を用いた植物の育成方法と指導法の開発～吸水性高分子培地と栽培・観察に適した植物種の選定～
第四分科会 環境教育	放射線学習を通じた理科の資質・能力の育成～1人1台端末を活用して～

8日

○記念講演

演題：「地球環境の変遷から宇宙における第二の地球の条件を探る」

東京大学大学院理学系教授 田近 英一 先生

○エキスカッション

国立科学博物館にて博物館連携プロジェクトの紹介と環状七号線地下調整池の見学を行いました。

VI 成果と課題

<成果>

例年とは異なり、10年ぶりに全国大会が東京で開催されたことで、各分科会の発表に向けて研究を深めることができた。

また、若手の教員を中心に実践発表と交流会を実施し、新たな取り組みやアイデアを広く共有することができた。これらの取り組みにより、学習指導要領に基づく授業の在り方として、生徒の主体的な学びや科学的な探究活動の取り組み方などを進めることができた。

<課題>

全国大会を契機に都中理の研究をさらに活性化し取り組んでいきたい。

主体的・対話的で深い学びの実現、「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価について、さらに研究を深め、授業実践を進めることが引き続き課題である。

<令和5年度連絡先>

団体名		東京都中学校理科教育研究会	
代表者	所属	日野市立日野第一中学校	
	職 氏名	校長 和田 栄治	
	連絡先	042-581-0261	
事務局	所属	豊島区立千川中学校	
	職 氏名	校長 牧野 崇	
	連絡先	03-3956-8171	
団体ホームページ		URL	二次元コード
		http://www.tochuri.net/	

研究主題 主体的・創造的に表現・鑑賞し、音楽文化の理解を深める授業を目指して ～副主題 器楽の授業における指導と評価の一体化の工夫～

I 東京都中学校音楽教育研究会とは

東京都中学校音楽教育研究会（以下都中音研）は、東京都内全ての公立中学校の音楽科教員と、一部国立、私立の音楽科教員で構成される研究団体です。組織は、事務局、庶務部、授業研究部、事業運営部、監査となっています。そして事業運営部には、更に次の4つの部があり、それぞれ研修・研究を企画・立案・実行しています。

- 1 専門研修部
- 2 合唱部
- 3 創作部
- 4 吹奏楽部

また、研究については、授業研究部が上記4つの部と連携を取りながら、行っています。

現在授業研究部は、音楽文化の理解を深める授業を目指した授業の提案をしており、毎年2月に研究授業公開と実践研究発表会をしています。

部員は以下の地域や学校に所属しており、全都から月1回程度集まって研究を進めています。

港区、新宿区、文京区、葛飾区、大田区、足立区、江戸川区、
目黒区、杉並区、世田谷区
三鷹市、武蔵野市、西東京市、府中市、立川市、八王子市、町田市、西多摩、都立学校、私立学校

II 研究の内容

今年度は、身体を楽器にして他者と合わせて演奏するなど「器楽」の授業を開発しています。具体的には

◎学習指導案と学習ワークシートの作成

◎適正な観点別評価・評定の在り方

を作成・検討し、2月に研究発表会を行います。特に評価・評定については、授業研究部員が自校で検証授業を行い、生徒のワークシートを持ち寄って検討を行っています。

また、毎年専門研修部と連携を取り、研究内容に沿った研修を開催し、全都の音楽科教員と共有しています。

【今年度の専門研修】

（1）筑波大学附属小学校教諭・高倉弘光先生より、音を音楽にする音楽づくりの授業実践について、体験を通して学びました。

（2）打楽器奏者山本晶子様、ピアニストの小林真人様を講師に招いて、ボディーズムの体験と実践を行いました。

【研究の指導】

今年度は玉川大学教授・清水宏美先生より、御講義・御指導をいただいています。

また、8月の授業研究部会では、教材の作曲者である東京音楽大学客員教授・瀧口亮介先生より、作曲の意図や指導法について、実践を交えながら御講義いただきました。

Ⅲ 研究方法と研究計画

授業研究部では、毎年研究発表を行うため、次のような研究方法により、計画を密に立てて実行しています。

【研究方法】

- ・学習指導案と学習ワークシートの立案と検討
- ・専門研修による実技研修
- ・部員による検証授業
- ・検証授業内の部員による観察
- ・検証授業により作成された生徒作品の評価検討

【研究計画】

- 4月 研究のテーマと学習内容や対象学年の設定
- 5月 研究テーマに沿った学習指導案作成
- 6月 学習指導案検討
- 7月 学習指導案と学習ワークシートの検討
- 8月 専門研修
大学教授などの御指導、御講義
模擬授業①
- 9月 学習指導案と学習ワークシート検討・完成
- 10月 各学校での検証授業開始
- 11月 検証授業と講師による指導・好評
- 12月 評価の検討
- 1月 研究冊子完成
- 2月 **【研究発表会】研究授業公開と指導・講評**
- 3月 研究の成果と課題、次年度へ向けて講師による指導

Ⅳ 実践事例

毎年成果物として、研究成果と研究授業の学習指導案、学習ワークシート、評価・評定の具体例などを載せて研究冊子を作成しています。

過去の事例は

- ・声部の役割を理解して合唱する授業
- ・声部の役割を理解して合奏する授業
- ・歌唱と鑑賞を関連させた授業
- ・旋律創作の授業
- ・世界の諸民族の音楽を鑑賞する授業
- ・日本の民謡を鑑賞する授業



などがあります。学習指導要領の基礎

研究も行い、音楽科の授業の課題を持ち寄りながら研究を進めています。

研究部員は随時募集中ですので、興味がある方は下記まで御連絡ください。

<連絡先>

団体名		東京都中学校音楽教育研究会
代表者	所属	葛飾区立大道中学校
	職 氏名	校長 角 康宏
	連絡先	03-3693-3350
事務局	所属	港区立三田中学校
	職 氏名	主幹教諭 砂子 美由紀
	連絡先	03-5441-7348

研究主題「なぜ美術を学ぶのか」

～生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる中学校美術教育の在り方について～

I 本研究会の概要

本会は東京都中学校美術教育研究会の研究並びに会員相互の親睦を図ることを目的とし、東京都中学校各地区美術教育研究部を母体とし、中学校美術教育に関係ある教職員を会員として構成する。

〔専門部〕 教科研究部・広報部・行事部（休部）

- 〔事業〕 ①美術教育に関する調査研究ならびにその発表
②協議会、講習会、展覧会、視察、見学、研究事業
③意見の公表ならびに建議
④会員相互の親睦
⑤その他本会の目的達成に必要な事業

II 本研究会の活動方針

【美術科教員相互の連携を図り、授業力を向上するための研修を行う】

少子化により学校規模が縮小し、美術科教員が1名の学校や、専任がおらず講師のみの中学校が増えています。各区市町村の美術研究会とともに本会が担うべき大きな役割は、美術科教員相互の連携を図り、教科指導の専門性を高める学びの場を提供することであると思います。夏季教科研修会等を通じて優れた実践や新たな視点について情報を共有し、若手教員に対しては、ベテラン教員がこれまで培ってきた指導方法や題材の工夫を伝えるなど教育資源を次代へつなぎ、美術科授業の質の安定と一層の向上を図る取組を推進しています。

【中学校美術教育についての実践的な研究を行い、成果を発信する】

東京都中学校美術教育研究会第3ブロック大会（杉並区・練馬区・中野区）を杉並区で開催します。美術科授業の工夫・改善について、研究成果を発表します。

【関係団体と連携し、広く美術教育の充実・発展に寄与する】

造形美術関連の諸団体と連携し活動を行います。近年は、オンラインによる会議や研究会への参加が多くなっていますが、積極的な情報連携等を通じて地域・校種を超えた美術教育の充実・発展に努めます。

III 研究の目的

中学校美術科において、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習活動の質を向上させるためには、造形的な見方、考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させて学習を充実させることで、美術を学ぶことに対する必要性を実感し、目的意識を高めるなどの「主体的な学び」の視点が大切です。さらに、自己との対話を深めることや、表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりすることなどの「対話的な学び」の視点も重要です。今年度の活動にあたっては、これらの視点に着目し、生徒の「深い学び」につながる中学校美術教育の在り方について研究・研修を推進します。

IV 令和5年度の活動

- | | |
|--------|---|
| 5月16日 | 令和5年度東京都中学校美術教育研究会総会・研修会
杉並区立泉南中学校 |
| 7月31日 | 夏季研修① 美術館研修（対話による鑑賞プログラム）
国立西洋美術館 |
| 8月4日 | 夏季研修② 作品持ち寄り研修
杉並区立泉南中学校 |
| 11月17日 | 第62回関東甲信越静地区造形教育研究大会埼玉大会
川口総合文化センターリリア |
| 12月26日 | 第1回都中美校長・副校長研修会、教科研究部研修会
中野区立南中野中学校 |
| 2月7日 | 第40回東京都中学校美術教育研究会第3ブロック大会
杉並区立泉南中学校 |
| 3月26日 | 第2回都中美校長・副校長研修会、第2回教科研究部研修会
中野区立南中野中学校 |

V 研究・研修の取組内容

夏季研修① 美術館研修 対話による鑑賞プログラム

国立西洋美術館の常設作品を活用した対話による鑑賞を体験し、グループ協議を行い、実際に対話による鑑賞プログラムを実践しました。

参加者は対話型鑑賞の面白さを味わい、ファシリテーターと鑑賞者が変わることで、どのようなギャラリートークになるのか、グループで互いに披露し合い、鑑賞者との対話で作品の見方・考え方を深めました。限られた時間でのギャラリートークは、大いに盛り上がりしました。



参加者からは、「ファシリテーターの気持ちでは合いを進めていく必要がある。」「生徒の発言から授業が発展することがよく分かった。」「情報は小出しにエッセンスを残していく感じがよい。」「発問の工夫を行わなくてはならない。」「対話を楽しむだけでなく、それを通して次の作品づくりにつなげる。」「想定外の質問があった場合にどうすればよいのか。」「話の進み方で、トーカー（話し手）のスキルが分かってしまう。」「トーカーの引き出しの重要性を感じた。」「作品を見る時間を長く確保する。」「生徒の実体を見極め、変容をどう見取り評価に結び付け、評価材料をいかに集めるか。」「言語化が苦手な生徒へワークシートを準備する。」など様々な意見があり、鑑賞指導について研修を深めました。

夏季研修② 作品持ち寄り研修

参加した先生方は、自身が指導し制作させた生徒作品及び題材のねらい等が分かる説明用紙、ワークシート、略案を持ち寄って、「学習指導要領と三観点での評価」の視点で、小グループでの実践発表と協議を行いました。各々の実践発表を熱心に聞き入り、教材研究に活かしました。最後に、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 平田 朝一 先生による講義を受け、美術教育における我々の指導の本質を再確認することができました。



VI 研究大会（予定）

令和5年度 第40回 東京都中学校美術教育研究会
第3ブロック大会（杉並・中野・練馬）大会

日時 令和6年2月7日（水）13:30～16:30
会場 杉並区立泉南中学校
大会全体テーマ 「なぜ、美術を学ぶのか」
分科会テーマ 1 「鑑賞から表現へ」
2 「生活や社会の中の美術」
3 「主題を生み出すことについて」

指導・講評

文化庁参事官(芸術文化担当)付教科調査官
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
平田 朝一 先生

<令和5年度連絡先>

団体名		東京都中学校美術教育研究会	
代表者	所属	江戸川区立春江中学校	
	職 氏名	校長 横枕 耕史	
	連絡先	03-3678-9241	
事務局	所属	中野区立南中野中学校	
	職 氏名	副校長 内田 善人	
	連絡先	03-3381-7277	
団体ホームページ		URL	二次元コード
		http://totyubi.sakura.ne.jp/	

研究主題 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて 生活を工夫し創造する生徒の育成を目指す技術・家庭科教育 ～問題を見極め課題を設定し解決する学習とその評価～

I 本研究会の概要

研究部、総務部、調査部、事業部で組織され、研究部では各領域内容の研究を通して、また、総務部、事業部では、ものづくり競技会や作品展の企画・運営を通して、さらに、調査部では研究成果の収集、会報の作成・周知を通して教員の資質向上を目指している。

II 本研究会の研究・事業等の基本方針

- (1) 技術・家庭科で養うべき資質・能力と3学年間を見通した学習過程との関連を図ること。
- (2) 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成することを踏まえつつ、「協働して作業する能力」と「主体性」を育てる指導方法を工夫すること。
- (3) 「見方・考え方」を働かせ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ること。
- (4) 研究活動を通して、各部や各地域の研究活動の充実と人材育成を図ること。
- (5) 研究活動において、東京都内をはじめ近郊の大学と連携し、これまでの全国大会・関東甲信越大会の成果をもとに、さらなる研究の推進を行うこと。

III 研究主題設定の理由

本研究会では生徒が主体的に生活を工夫し創造するためには、身の回りの生活や社会を見渡し、その中から問題を見極め、課題を設定できる力を育むことが大切だと考えた。技術や生活の営みに係る「見方・考え方」を働かせて、よりよい生活や持続可能な社会の実現に向けて問題を見極めること。見極めた問題について「見方・考え方の視点」を用いて課題を設定すること。設定した課題を解決できること。など、見方・考え方を働かせる学習過程の検討と、適切な指導計画や、指導と評価を工夫するとともに、このような学習を3年間を見通して計画的に繰り返すことで、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造する生徒が育成できるであろう。さらに、問題解決学習に繰り返し取り組んだ後に、解決した課題以外の問題点を新たな課題として設定し、解決しようとしたり、これまでにない問題点を見いだしたりする態度、よりよくするために粘り強く取り組もうとする態度、また、様々な学びの振り返りを通して自らの学習を調整しようとする態度などを適切に指導し、評価する方法を工夫すれば、子供の学びを質的に高め、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し、創造する資質・能力を育成することができると考え、昨年度研究に取り組んだ。

今年度は、昨年度の研究成果を基により発展させ、問題を見極め課題を設定し解決する学習と、その評価の充実を目指し、研究主題を設定した。

IV 研究体制

本教科の技術、家庭両分野の各内容の構成に基づき、次の八つの専門研究委員会を組織し、研究を実施した。

- | | |
|---------------|------------|
| ①「材料と加工の技術」 | ②「生物育成の技術」 |
| ③「エネルギー変換の技術」 | ④「情報の技術」 |
| ⑤「家族・家庭生活」 | ⑥－1「食の生活」 |
| ⑥－2「衣住の生活」 | ⑦「消費生活・環境」 |

V 研究内容等

各研究委員会の研究内容等は次のとおり。最新情報及び詳細な内容については、本研究会 Web サイトを参照されたい。(東京都中学校技術・家庭科研究会 <https://ajgika.ne.jp/~tokyo/>)

- ① イノベーションにつながる問題発見・課題解決学習
～学校の机を使いやすくできる製品開発を通して～
- ② 生物育成の技術と生活との関わりを理解し持続可能な社会の構築をめざす生徒の育成
～独自の課題によるダイコンの袋栽培を通して～
- ③ 持続可能な社会の実現を目指し、主体的に技術を工夫し創造することができる生徒の育成
～モデル製作による問題解決学習を通して～
- ④ 持続可能な社会の実現に向けてよりよい社会の作り手を育てる情報の技術の指導
- ⑤ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、家族や地域の人々と協働し、よりよい家庭生活を営もうとする生徒の育成
～問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して～

- ⑥－1 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて健康で豊かな食生活を実践しようとする生徒の育成
～問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して～
- ⑥－2 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて衣生活、住生活を工夫し創造する生徒の育成
～問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して～
- ⑦ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、自立した消費者として責任ある消費行動のとれる生徒の育成
～問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して～

VI 主な事業等

- 夏季実技研修会
- 創造ものづくりフェア in TOKYO
- 全国中学生創造ものづくり教育フェア関東甲信越地区予選
- 全国中学生創造ものづくり教育フェア

＜令和5年度連絡先＞

団体名		東京都中学校技術・家庭科研究会	
代表者	所属	目黒区立第十一中学校	
	職 氏名	校長 田井 俊行	
	連絡先	03-3718-6506	
事務局	所属	小平市立小平第二中学校	
	職 氏名	校長 吉田 功	
	連絡先	042-341-0244	
団体ホームページ		URL	二次元コード
		https://ajgika.ne.jp/~tokyo/	

研究主題 グローバル化に対応した英語教育の実践

I 団体の概要

1 活動方針

本研究会は、次の行動目標の下、東京都の中学校英語教育のなお一層の充実と発展を目指して活動するものである。

- (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を目的とした研修事業を実施する。
- (2) 英語教育に関わる調査活動を行うとともに、英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究活動を行う。

2 組織構成

(1) 総務・経理部

関係諸機関、関係団体並びに本研究会各部との連携を進め、活動を支援・協力する。経理は会計に関する全てを担当する。

(2) 事業部

英語学芸会の運営及び英語教育の今日的課題に対する研究を行う。

(3) 調査部

適正な評価に向けたテスト問題の研究を行う。

(4) 研究部

推奨語いの研究と、指導法の研究開発及びその普及を行う。

(5) 出版部

「都中英研だより」「中英研会報」等の機関誌を発行する。

(6) プロジェクトチーム部（PT部）

近年は音読指導開発を中心に、英語運用能力向上させる研究を行う。

II 団体の取組

各種研修会の開催

1 事業部

8月21日（月）午後（集合・オンライン開催）

（千代田区立九段中等教育学校）

「小・中・高等学校で一貫した英語教育を実現しよう」

～英語発信力の強化を図る校種間の円滑な接続を目指して～

- ・東京型グローバル人材育成モデルの理念と英語授業
- ・中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の活用と指導改善
- ・東京都教育支援機構（TEPRO）を活用した取組事例

講師：東京都教育庁グローバル人材育成部 主任指導主事 森田 剛 様

2 調査部

8月23日（水）全日（集合開催）

（千代田区立九段中等教育学校）

テストづくりワークショップ

参加者作成のリーディング問題を検討

「『コミュニケーションテスト』のスペックから問題作成へ（読むこと）」

講師：玉川大学文学部英語教育学科 教授 工藤 洋路 様

3 研究部

【第1回】8月1日（火）午後 集合開催（大田区立志茂田中学校）
 「生徒が主体的に授業に参加するための工夫（アクティブラーニング）」
 「練習量を増やす工夫」
 「思考力・判断力・表現力の育成（小中高連携を意識して）」
 【第2回】8月4日（金）午後 オンライン開催
 「即興で話す力を高める授業実践（中間指導と評価について）」
 「主体的に学習に取り組む態度の評価」
 「中学での語い指導を改めて考えてみよう」
 【研究発表会】令和6年2月22日（木）午後 公開授業及び研究発表
 （渋谷区立松濤中学校）

4 プロジェクトチーム部(PT部)

8月23日（水）午後 集合開催（墨田区立吾嬬立花中学校）
 「4技能5領域の力を育成するための音読指導の必要性和指導」
 PT部員による実践報告
 音読指導ワークショップ
 講師：文教大学国際学部国際理解学科 教授 阿野 幸一 様
 【研究授業】
 令和6年2月15日（木）午後 研究授業及び研修会
 （町田市立鶴川第二中学校）
 「音読活動の充実と話すこと指導の工夫」

Ⅲ その他の取組

1 機関誌発行

出版部 10月「都中英研だより」にて研究の概要を紹介
 3月「中英研会報」にて年間の活動を報告

2 学芸大会(生徒によるスピーチ及びプレイの発表会)

事業部担当「第76回英語学芸大会」の実施
 多様な発表形態を研究し、オンライン開催と集合開催の2大会を開催
 オンライン開催 11月、集合開催 12月（たましんRISURUホール）

3 関係諸機関との連携

全英連、関東甲信地区英語教育研究会、大都市公立中学校英語教育研究会、東京都小学校外国語教育研究会、東京都高等学校英語教育研究会等と連携し、研究の情報交換

<令和5年度連絡先>

団体名		東京都中学校英語教育研究会	
代表者	所属	葛飾区立常盤中学校	
	職 氏名	校長 平岡 栄一	
	連絡先	03-3607-4757	
事務局	所属	葛飾区立金町中学校	
	職 氏名	校長 板垣 繁	
	連絡先	03-3607-2575	
団体ホームページ		URL	二次元コード
		http://chueiken-tokyo.org	

研究主題 教科の特質を生かしつつ、これからの時代に対応する道德科の指導の工夫

I 東京都中学校道德教育研究会の概要

東京都内公立中学校の教員で構成する、中学校道德教育の研究とその実践を進め、その取組内容を内外に発信することを目的とする。

道德教育の研修及び研究の充実を図り、教師一人一人の道德教育に対する認識と指導力の向上に努め、会員相互の連絡・親睦を深めることなどを目標に、研究会の開催と参加、教育資料の収集と交換、内外の道德教育の研究・調査、道德教育実践の成果の発表などの事業に取り組んでいる。

本会は、研究部、広報部、庶務部、会計部の4部で構成する。

II 研究主題設定の理由

昨年度は、道德教育推進教師の役割とカリキュラムマネジメント、ICT機器の効果的な活用の研究などに取り組み、生徒と教師がともに人間としての生き方を深く考える授業の大切さを再確認することができた。その中で、ICTの活用自体が目的化しないように、常に授業のねらいを念頭に置いておくこと、また、道德科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をどのように図ればよいか。そのためにICTをどのように活用すればよいか、また、より適切な評価のための工夫改善をいかに図るかも新たな課題として挙げられた。

そこで今年度は、コロナ禍後に求められている道德教育の役割を明らかにし、ICT機器等を柔軟に活用しながら、生徒と教師が生き方をともに考える授業を通して、心を通わせていくことができるようにするにはどうすればよいかを考えていくことを念頭に置き、本テーマを設定した。

III 主な年間の活動

1 定期総会・研修会

令和5年6月20日(火) 会場 中野サンプラザ

(対面・同時Web配信)

(総会) 前年度活動の報告、本年度活動計画の承認など

(研修会) 講師 国立教育政策研究所教育課程調査官

井上 結香子 氏

演題「道德教育のさらなる充実を目指して」

2 部員総会・研修会 (年2回①令和5年8月、②令和6年1月)

(1) 第1回 令和5年8月22日(火)会場 杉並区立高円寺学園

(部員総会) 各部からの活動経過の報告、今後の活動予定など

(研修会) 全国大会及び関東甲信越大会に向けてのプレ発表

講師 麗澤大学大学院学校教育研究科

道德教育専攻教授 鈴木 明雄 氏

演題 主体的・対話的で深い学びを目指す

道德科の授業改善

(2) 第2回 令和6年1月19日(金)会場 杉並区立高円寺学園

(部員総会) 各部からの活動経過の報告、今後の活動予定など

(研修会) 全国大会及び関東甲信越大会の発表報告

講師 東京都教職員研修センター研修部

授業力向上課教師道場教授 森岡 耕平 氏

3 第53回東京都中学校道德教育研究会研究発表大会

令和6年2月2日(金) 会場 杉並区立向陽中学校

(対面・同時Web配信)

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都中学校道德教育研究会】

- ・公開授業及び講師による指導講評及び講話
講師 国立教育政策研究所教育課程調査官
井上 結香子 氏

4 研究部会（定例会）

第1回 令和5年4月22日(土) 以後毎月1回開催(全11回)
主に土曜日(14:00~17:00)(対面・Web併用)

会場 杉並区立向陽中学校

- ・前期 全国大会、関東甲信越大会での研究発表に向けた協議
ICTの活用した評価、学校行事との関連などの研究
- ・後期 研究発表会及び公開授業に向けての取組
公開授業の方針・題材・授業者の選定
3グループに分かれた指導案の検討

5 調査活動

都内全公立中学校を対象とした道德教育の推進に係る
アンケート調査を実施

(令和5年11月実施・令和6年1月集計・令和6年2月公表)

IV 研究・活動内容

(1) 関東大会における発表について (於)栃木県足利市立北中学校

(開催日) 令和5年10月27日(金)

(大会名) 第52回関東甲信越中学校道德教育研究大会栃木大会

(大会主題)「未来を切り拓き、豊かな心を育む道德教育～語り合い、
高め合い、より良い生き方を追究する生徒の育成～」

(発表者) 世田谷区立桜丘中学校 大谷 秋音 教諭

(発表内容)「学習評価を活用した道德科の指導の工夫～自らの考えを
より深めようとする生徒の育成を目指して～」を研究主題とし、タ
ブレットやアプリなどのICTを活用し、考えを深め、評価に生か
せるような授業の実践と成果について発表した。

(2) 全国大会における発表について (於) 北海道函館市亀田中学校他
(開催日) 令和5年11月1日(水)~2日(木)

(大会名) 第57回全国日本中学校道德教育研究大会北海道大会

(大会主題)「主体的に学び合う児童生徒の育成～well being の
実現を目指した道德教育の実践～」

(発表者) 大田区立南六郷中学校 三瓶 真悟 主任教諭

(発表内容)「運動会に関連付けた道德教育充実の取組～認め合
い、支え合い、高め合う生徒の育成を目指して～」を
研究主題とし、「友情、信頼」について、学校行事を
生かした授業を行うことで、より深い学びと道德性の
育成を目指した実践と成果について発表した。

(3) 研究発表大会の公開授業について (於)杉並区立高円寺学園

文科省資料「闇の中の炎」[(内容項目)C(10)遵法精神,公德心]を用
い、3名の研究部員が、それぞれ、道德科の授業におけるICTの
活用、個別最適な学び、考えを深める発問の工夫などに焦点をあて
た公開授業を行う。

<連絡先>

団体名		東京都中学校道德教育研究会
代表者	所属	多摩市立聖ヶ丘中学校
	職 氏名	校長 麻生 隆久
	連絡先	042-374-0685
事務局	所属	調布市立神代四中学校
	職 氏名	校長 生野まゆみ
	連絡先	042-482-0171

研究テーマ GIGA スクール時代の新しい教育に向けて、デジタル機器を活用した新しい学びの提案

I 団体について

【団体の概要】

- 都内公立中学校の教員をもって構成する視聴覚教育研究会
- 中学校視聴覚教育や情報教育の研究・調査ならびにその普及・促進を図ることを目的とし、以下の事業を行う。
 - 1 中学校における視聴覚教育や情報教育に関する研究並びに調査
 - 2 中学校における視聴覚教育や情報教育の普及・促進並びにその施設の拡充に寄与すること
 - 3 関係諸団体との連絡、提携を図ること
 - 4 その目標達成に必要なこと

II 年間活動について

【研究会の活動】

令和5年度の活動は以下のとおりである。

- 1 定期総会（6月17日（土） 会場：墨田区立錦糸中学校）
 - ・前年度の活動報告、本年度活動計画、組織等の承認
 - ・研修会（『デジタルを活用したこれからの学びの提案』）
- 2 夏季研修会①（8月4日（金） 会場：Apple 六本木支社）
 - ・iPadアプリを活用した授業づくり（ワークショップ）
- 3 夏季研修会②（8月8日（火） 会場：墨田区立錦糸中学校）
 - ・Googleアプリを活用した授業づくり（ワークショップ）

- 4 事務局会・研修会（9月3日（土）会場：墨田区立錦糸中学校）
 - ・全国大会、関東甲信越大会での研究発表に向けた協議
 - ・J A E T 青森大会参加の打ち合わせ
 - ・各地区のタブレット活用についての調査、意見交換
- 5 第49回全日本教育工学研究協議会・青森大会（三沢市）（10月27日（金）・28日（土））
 - ・六ヶ所村立第二中学校 授業公開、基調講演、特別講演
 - ・ワークショップ、研究発表、パネルディスカッション
- 6 第27回視聴覚教育全国大会・首都圏大会（11月11日（土）、オンライン）
 - ・セミナー、ワークショップ、実践発表、全体会
- 7 令和5年度関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会 山梨大会（11月17日（金）、オンライン）
 - ・公開授業、分科会、記念講演
- 8 事務局会・研修会（12月2日（土）会場：墨田区立錦糸中学校）
 - ・研究大会に向けた協議、研究紀要の作成準備
 - ・学習支援アプリに関する検討
- 9 Educational Solution Seminar 2023 in 東北（令和5年度 情報教育対応 教員研修全国セミナー 12月26日（火））
- 10 東京都中学校視聴覚教育研究会・研究大会 1月12日（金）
大田区立南六郷中学校にて公開授業・研究協議会・講演会



Ⅲ 第27回視聴覚教育全国大会・首都圏大会での発表

『情報活用能力育成の実践』

～東京モデルをもとにした“#鹿中モデル”作成～

江戸川区立鹿本中学校 教諭 小張 幸宏

1 実践のねらい

(ア) 鹿本中学校の状況(2022年10月時点)

情報活用能力を育成するためのカリキュラムマネジメントなどは行われていなかった。また、区からの情報提供や他校の事例を知る機会もなく、GIGAスクール構想と並行で行われるべき「情報活用能力の育成」に関して、出遅れている状況であった。

(イ) #鹿中モデルの作成

#鹿中モデルは「情報活用能力 #東京モデル」を基に鹿本中学校が独自に作成した、情報活用能力育成のための「ステップ表」である。この表を用いて、生徒の現状把握を行う。また、卒業までに身に付けたいスキルなどを体系的に網羅している。さらに、現状の各教科の取り組みがどのように情報活用能力育成につながっているのか確認することで、「新たに授業で何かをしなければいけない」という負担を少なくしつつ、生徒が情報活用能力を身に付けられるようにするカリキュラムマネジメントの側面を持ちうると考えた。

2 実践の方法・流れ

(ア) 東京モデルについて

東京モデルの要求する「情報活用能力」は本校の現状に照らし合わせるといささか高度であると判断した。そこで、本校独自に組織した教員の「情報委員会」において各ステップの該当するスキルについて全面的に見直した。その結果、全体としては東京モデルにおいて中学校1年生相当としているスキルを、中学校3年間で育成することを目指すものとした。

(イ) スキル内容の検討

前述のようなステップの段階の整理に加えて、スキルの内容についても検討した。例えば、昨今叫ばれている「デジタルシティズンシップ」についての視点が抜けていたため、情報モラルと並行して指導してく流れとした。

3 実践の結果・考察

鹿中モデルの作成によって、「情報活用能力」のさすスキルが具体的なものとなった。また、それらのスキルをどの学年のどの段階で身に付けていくべきか、議論の材料となるたたき台としての役割を担うことができた。結果的に東京モデルの内容は本校では高度であると判断できたのも、この議論をしたからである。

4 今後に向けて

年間指導計画上に各スキルを位置付けることはできたが、それぞれのスキルが過不足なく育成されているか継続的に評価を行っていく必要がある。また、情報活用能力の育成が生徒の学びの姿としてどのように表れているかを見取る必要がある。

参考文献

情報活用能力 #東京モデル | 情報教育ポータルサイト

https://infoedu.metro.tokyo.lg.jp/tokyo_model.html



Ⅳ 東京都中学校視聴覚教育研究会・研究大会

令和5年度 研究大会

日時：令和6年1月12日(金) 14時～16時30分

場所：大田区立南六郷中学校

内容：公開授業・研究協議会・講演

講演：東京女子体育大学 教育学研究室

教授 石出 勉 先生

<令和5年度連絡先>

団体名		東京都中学校視聴覚教育研究会	
代表者	所属	墨田区立錦糸中学校	
	職 氏名	校長 和田 浩二	
	連絡先	03-3625-0375	
事務局	所属	葛飾区立奥戸中学校	
	職 氏名	主任教諭 木村 諭	
	連絡先	03-3650-1326	
団体ホームページ		URL	二次元コード
		https://www.tochushiken.com/	

研究主題 マット運動における技の出来映えを高めるための指導法の工夫 ～運動特性に応じた姿勢や動きのポイントの習得を通して～

I 研究のねらい

東京都中学校体育連盟研究委員会では、これまで競技専門部と連携した実技講習会を実施し、各競技の指導方法を学び、部活動の指導現場に生かすことや、各競技の「基本となる動き」を学び、保健体育科の授業づくりや授業改善等に役立ててきた。「体操競技」の実技講習会では、マット運動や跳び箱運動等の技の習得につながる動きのポイントや練習方法についてご教示いただいた。

学習指導要領では、「器械運動においては、難易度の高い技のみに興味をもつのではなく、基本的な技の出来映えを高めることも大切であることや、技の課題を解決するための合理的な動き方を理解して練習に取り組むことなどを、学習場面に応じて指導することが大切である」と示されている。

そこで、本研究では1年生を対象に、マット運動における基本的な技の出来映えを高めるための指導法の工夫として、合理的な動きの基本となる「姿勢」や「動きのポイント」に着目し、その習得を中心とした授業づくりをすることとした。

また、「姿勢」や「動きのポイント」、動きや基本的な技の行い方等の理解を深める上で、ICTの活用や学習する技の順番、補助の行い方についても工夫した。

II 研究の概要

- (1) 基本となる「姿勢」や「動きのポイント」の整理
- (2) 「姿勢」や「動きのポイント」の習得をねらいとしたトレーニングドリルの実践
- (3) 動画教材及びデジタル学習カードの効果的な活用
- (4) 学習する技の順番と補助の行い方
- (5) 質問紙調査の実施

III 研究の実践

(1) 基本となる「姿勢」や「動きのポイント」の整理

マット運動における習得すべき「姿勢」や「動きのポイント」の要点を整理した。

- 姿勢 1 体を伸ばす → 体が伸びていた方が技の出来映えの評価が高い。
2 体を反らさない → 体を反らず、次の動きへ滑らかに移る。
- 動きのポイント 3 手で自重を支える → 着手時に体の動きを支える。
4 体をしめる → 体の動きを滑らかにする。
5 重心を上げる → 回転に勢いをつける。

(2) 「姿勢」や「動きのポイント」を取り入れたトレーニングドリルの実践

「姿勢」や「動きのポイント」を取り入れた運動の組み合わせをベーシックドリルとした。その内容の定着を図るために、毎時間ストレッチ後に15分程度行った。また、その要点について、より具体的な声掛けを続けることに留意した。

【ベーシックドリル】

- 腕立て姿勢保持 ○ ゆりかごⅠ ○ カエルジャンプ ○ 手押し車（ペア）
- 腕立てクロール ○ ゆりかごⅡ ○ コロコロ ○ 補助倒立（ペア）



ベーシックドリルが技の出来映えにつながることを実感しやすくするために、取り扱う技を精選し、前転、後転、開脚前転、開脚後転、側方倒立回転に取り組んだ。

(3) 動画教材及びデジタル学習カードの効果的な活用

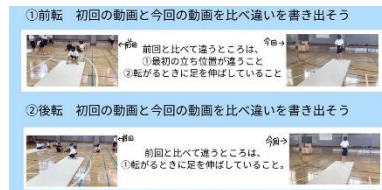
① 動画教材の作成と活用

「姿勢」や「動きのポイント」の理解を深めるとともに、自己の出来映えと比較して課題を発見するために手本の動画教材を作成した。動画は、学習アプリケーションソフト「ロイロノート」の資料箱に保存し、生徒が活用できるようにした。



② デジタル学習カードの活用

授業では、振り返りの学習カードとして、「ロイロノート」のデジタル学習カードを活用している。生徒は、所定のカードに振り返りの内容を記入するとともに仲間が撮影した自身の動画を貼り付けたり、複数の動画をつなげたりすることもできる。



(4) 学習する技の順番と補助の行い方

① 学習する技の順番

学習に取り組みやすくするとともに、技の出来映えの高まりを実感しやすくするため、開脚後転から後転の順番で取り組むこととした。

② 補助の行い方

技の出来映えと「姿勢」や「動きのポイント」とのつながりを実感することや、技の出来映えをよりよくするために、適切な補助の行い方について指導した。なお、補助をする運動や技は、手押し車、補助倒立、後転、側方倒立回転とした。



IV 研究のまとめ

(1) 成果

- ベーシックドリルが技の出来映えを高めることにつながった。
「ベーシックドリルが役立った」 肯定的な回答 82%
- マット運動が楽しいと感じる生徒が増えた。
「マット運動が楽しい」 肯定的な回答 実施前 62% → 実施後 73%
「楽しい」と感じた理由 「技ができるようになった」「達成感があった」
- 動画教材、学習アプリケーション「ロイロノート」を効果的に活用できた。
「自身の動きを分析しやすくなった」「仲間との関わりが増えた」

(2) 課題

- マット運動に対する苦手意識
「体が硬いから」 → 柔軟性の改善、ベーシックドリルでの動的ストレッチの実施
- ベーシックドリルと体づくり運動の「体の動きを高める運動」との関連
取組内容の深まり、他領域でのベーシックドリルの実施、
- 補助の行い方を習得するための十分な時間の確保

<連絡先>

団体名		東京都中学校体育連盟
代表者	所属	足立区立江北桜中学校
	職 氏名	校長 金子 哲朗
	連絡先	03-3854-1191
事務局	所属	東京都中学校体育連盟事務局
	職 氏名	事務局長 佐藤 俊治
	連絡先	03-5615-9517